

「伝統と創意」

広報紙 書くよろこび

第9号

■「書の教育」座談会	2~5面
■生駒台小学校毛筆授業特集	6・7面
■文化人インタビュー	8・9面
■第10回手書き文字ばんざい!	10・11面
■第9回全日本小学生・中学生書道紙上展	12・13面
■第19回全日本高校・大学生書道展	14・15面
■全国シルバー書道展	16面

一、日本の伝統文化芸術を守り育もう
二、すばらしい日本語の心を伝えよう
三、心を映す文字をより大切にしよう
四、書く楽しさ喜びを通して健やかな心を養おう
五、美しい文字で潤いのある豊かな人生を送ろう



豊かな心は手書き文字から

【目的】 文字・活字文化振興法の骨子
し、知的で心豊かな国民生活および
活力ある社会の実現に寄与する。
【基本理念】 国民が等しく豊かな文字・活字
文化の恵沢を受ける環境を整備す
る。国語が日本文化の基盤である

【責務】 国や地方公共団体は文字・活字文
化の振興策を策定し、実施する責務
【国際交流】 文字・活字文化の海外への発信を
促進。翻訳の支援をする。
【文字・活字文化の日】 国民の関心と理解を深めるため、
十月二十七日を文字・活字文化の日
とする。

あるいは東京・六本木の国立新美術館では、大規模な展示会に出会うことしばしば。ふらっと入ると、まるで書の森にでも迷い込んだようで、爽快なもの。また、東京国立博物館で昨夏開催された台北・國立故宮博物院展では、蘇軾、孫過庭などの書

日本の学校の教室には、よくお習字が貼り出されます。町中でも書道の小展示が至る所で見られます。



寄稿

文部科学省
初等中等教育局長

小松 親次郎 氏

の歴史を代表する人物の作品が展示され、多くの来場者の心を打つことは、記憶に新しいところです。これら全体を通じて、私たちは、我が国が古くから中国文化に親しみ、それを受容しつつ独自の文化を発展させてきたことを改めて感じさせられていると言えるでしょう。

学校教育では、現行の小・中学校学習指導要領に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を新たに設け、その中に「書写」を位置付けました。また、

さらに、今後、東京オリンピック・パラリンピックが開催される二〇二〇年ま

で、我が国ではグローバル化が加速していくと思い

ます。そのような中では、単に英語が話せるというよ

うなことだけではなく、日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提とした、豊かな語学力・コミュニケーション能力

学習指導要領に
書写・書道の充実を

中学校においては、「文字を正しく整えて早く書く」という技能に加えて、「身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に書くこと」という学習を新設するなど、文字文化に親しむとい

う視点を一層充実しております。高等学校芸術科「書

道」では、小・中学校での書写・書道の学習を発展させ、「生涯にわたって書を愛好する心情を育てる」とことを目標に加えました。子供たちは、このような

学校における書写・書道に関する教育を通じて、書写の能力の向上はもちろんのこと、芸術文化についての理解を深めるとともに、生涯にわたって芸術を愛好する態度を養って欲しいと思

います。

こうした状況の中で、公益社団法人日本書芸院が進める「文字・活字文化の日」の記念イベント「手書き文字ばんざい！」、生涯学習

社会を見据えた全世界を網羅する書道展の開催、文字文化を

伝える広報紙等の発行は、書の伝統と文化を深化させ次世代へと継承させる上で、大きな役割を果たしていると言えるでしょう。日本書芸院が「手書き文字にこそ魂がやどる」との信念のもと、これからも手書きの大切さやすばらしさを伝え、その輪が広がることを期待しております。

ことに配慮する。学校では「言語力を」をはぐくむ。

国や地方公共団体は文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

文字・活字文化の発信を促進。翻訳の支援をする。

国や地方公共団体は司書の充実など人的体制を整備し、資料の充実を図る。学校図書館を開放する。

文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

座談会

日本書芸院
書写・書道教育推進協議会

書の振興と教育 考える

荒船 清彦氏 公益財団法人全国書美術振興会会長、書写・書道教育推進協議会会长
老川 祥一氏 読売新聞グループ本社取締役最高顧問・主筆代理、読売書法会会长
河村 建夫氏 衆議院議員、書道国会議員連盟会長
宮澤 正明氏 山梨大学教授、全国大学書写書道教育学会理事長
吉川 蕉仙理事長、横山 純平副理事長
関 芳弘氏 衆議院議員、書道国会議員連盟事務局長

※五十音順

公益社団法人日本書芸院 立会人



河村 建夫氏

書く喜び 教師が伝えて

書写・書道教育推進協議会
公益社団法人全日本書道連盟
公益財団法人全国書美術振興会
日本高等学校書道教育研究会
全国大学書写書道教育学会
全国書道学会の6団体で構成
(公益社団法人日本書芸院と読売書法会は賛同団体として参加しています)

書写・書道教育の推進と充実を求める署名活動に全国から約94万人の署名が寄せられ、書道界は、かつてない盛り上がりを見せた。活動の中心になった書写・書道教育推進協議会(/)と日本書芸院は、この機運をさらに高めるため、座談会を共同で開催し、様々な課題や今後の展望などについて話し合った。

※座談会は平成26年10月29日に行いました。

書道界が団結 94万人超の署名

吉川 「書写・書道教育の推進と充実に向けて」をテーマに、話し合っていきたいと考えています。書写・書道教育推進協議会は、毛筆教育の小学校低学年からの実施などを訴え、平成25年に「書写・書道教育に関する要望書」を文部科学大臣と中央教育審議会会長に提出いたしました。これを受け、日本書芸院なども署名活動を展開したところ、94万人を超える署名が集まり、26年9月24日に署名を添えて再度、要望書を提出しました。その節には、国会議員の河村建夫先生、関芳弘先生にもご

荒船 2年ほど前に、全国書道振興会で「書写・書道教育の今後を考える検討会」を設立して、書道教育の現状、課題について、勉強会を開きました。これがきっかけで、25年1月、全国書道連盟にも加わっていました。議論の末、「(25年2月に次期中教審委員が決まり、書道の現状を放つておくと中教審の議論に追いつかない)と判断し、25年6月に文科大臣に要望書を提出することになりました。一方で、署名運動も展開しようとして、書写・書道教育推進

河村 国会議員は色紙やサインを頼まれるとか、みんな筆を持つ機会が多くあります。閲覧になりますと、決裁は全部、筆でやらないければならないので、硯箱が閲覧の席に置いてあります。ですから、国会議員の書道勉強会もあります。そういう方々に呼びかけて、この議連がで

横山 新聞関係からも大きな力を感じました。老川 私の場合は、「読売書法会」をお預かりしているということ。それから、私自身、新聞社でござりますので、活字文化の大切さ、そういう観点から

私が申し上げたのは、学校教育における書写は、どんな筆記具であっても、正しく整えて書ける、読みやすい字が書けることです。それから、言葉を書く、文章を書くということになります。それが、言葉を書く、文

こうした活動を通じて企画されただもので、日ごろ考えておられることをお話していただければ、思っています。横山 それでは、要望書作成の辺りの経緯についてお願いします。

横山 今回の署名運動は、全国の書道愛好者が一致団結して展開し、かつてない高まりとなりました。河村先生、関先生らが、「書道国議員連盟」を設立していただきたのも大きな励みになりました。

河村 河村先生に、議員連盟の会長になっていたらいで、私は事務局長をさせてもらっています。河村会長が、自分たちの党だけではなくて、超党派でやろうと、お声かけいただいたのが一番よかったです。

横山 新聞関係からも大きな力を感じました。老川 私の場合は、「読売書法会」をお預かりしていること。それから、私自身、新聞社でござりますので、活字文化の大切さ、そういう観点から

きました。

要望書を提出する際に、50万人署名を目標にしていると聞いたのですが、その倍近い数

の署名が集まつたということに、大変驚き、感動しました。

全国区の参議院選でこれだけ集まつたら、2人ぐらい当選でき体で、署名運動も展開し、26年9月に大臣に提出しましたが、むしろ課題は、これからだと思っています。

横山 今回の署名運動は、全国の書道愛好者が一致団結して展開し、かつてない高まりとなりました。河村先生、関先生らが、「書道国議員連盟」を設立していただきたのも大きな励みになりました。

河村 河村先生に、議員連盟の会長になっていたらいで、私は事務局長をさせてもらっています。河村会長が、自分たちの党だけではなくて、超党派でやろうと、お声かけいただいたのが一

が。 宮澤 中教審の国語専門部会で、書寫の領域の委員として参考しましたが、国語は、学習指導要領改訂の折に、国語専門部会の書寫領域を担当された宮澤正明先生に、当時の状況や成果、課題等について伺いたいのです

が。 宮澤 中教審の国語専門部会で、書寫の領域の委員として参考しましたが、国語は、学習指

導内容がたくさんありますので、どの領域も学習時間が欲しいわけです。だから、書寫の時間数や内容が削減されるのではないか、といった危機感を持ちながら臨みました。

また、毛筆の機能を生かして

私が申し上げたのは、学校教育における書写は、どんな筆記具であっても、正しく整えて書ける、読みやすい字が書けることです。それが、言葉を書く、文

章を書く、というところに最終目標がなければならないということです。そのことがどこまで反映されたかは分かりませんが、例えば、小学5、6年生で、か

なり日常的な字を書くことになり、書写学習の日常化を図るといふところに、表れたのかなと思います。

横山 今回の要望書の大きな

た。穂先がどこを通るか、点画と点画のつながりをどうするかとか、毛筆でなければ学習できないものが出てきました。これは、特筆すべき内容だと思いま

す。

もう一つ。従来、中学校の国語科書写と高等学校の芸術科書道が、やや、かい離していると

言わしていましたが、中学3年生で高等学校の書道を見据えた内容に、解説書でうたつています。国語科書写と芸術科書道の重なる部分ができました。



荒船 清彦 氏

事項として、小学1年生から毛筆指導を盛り込んでいます。国語科は1年生、2年生は週9コマあります。でも、現行の指導要領には毛筆の書写はありません。幼稚教育を徹底して、毛筆ということに置きかえていけば、新しい成果が出るのじゃないか。この辺については。

宮澤 小学3年生から毛筆が必修になっていますが、生涯学習として、あるいは、芸術書道として、小学校の早い段階からスタートできる状況が望ましい姿なのかなと思ってます。

荒船 「説明を聞いて、かなりいい方向は、出ているなと思います。少し話が、ずれるかも知れませんが、25年に東京国立博物館で『書聖 王羲之展』がございました。展覧会を見た小学生の話が新聞に載っていました。字の大きさが大、中、小まちまだとか、木偏の下を跳ねてある、間違っているんじゃないなぜ、これが、芸術なんだ、などと話しており、驚きました。

宮澤 小学校は国語教育科目の中でも、括弧つきで書写を含む現状については。

横山 教員免許状の取得などを修している大学もあれば、1

もう少し感性の面も同時に教えてもらわないと、と思いましたね。

横山 宮澤先生が参加された学習指導要領は、24年度から実施されました。時間数も少し増えたわけですけど、現在の書写・書道教育を考えた時に、それが完全に実施していく環境が足りないと言われます。制度がありながら実質では、なかなか行きなさいというのも、結構多いことなんですか。

河村 これは学校現場の先生たちの熱意の問題もあるかと思います。形だけさらっと、ということだらうと思いますが、先生がそのことの重要性をどう認識しておられるのか。我々が訴えることによって、また違うところを先生が語ってくれるようにならないと。

宮澤 教員養成系の大学は、学生たちが教壇に立った時、どう指導ができるのかを意識しながら取り組まなければなりません。私の小学校時代、当時は師範学校出身の先生がたくさんいましたので、どなたも板書がうまかった。毛筆も、戦前教育の中で必修で、先生方は毛筆も上手だった。そういう文字環境が学校の中にありました。現在は毛筆を持って、何かを書いながら、子供にどうやって字を書かせるかについて言えば、私は孫の誕生日にカードを渡し、カードを必ず返させます。

河村 私の高等学校時代の先生はチョークで書いても、字がきちっとしていました。力を入れて書くので日々、チョークが割れることもあった。それをよく覚えていています。

それから、子供にどうやって字を書かせるかについて言えば、私は孫の誕生日にカードを渡し、カードを必ず返させます。

河村 私たちが大変興奮して、書にすぐ関心を持つてくれました。子供たちが大変興奮して、ち込んで、教えたことがあります。子供たちが大変興奮して、書にすぐ関心を持つてくれました。

横山 IT化が進む中で、文化のあり方というものが、問うことをやっています。家庭教育の中では、じい、ばあからも孫に教育する、そういう機会をもつと、作つてやるというのも一つの方法かもしれませんね。

老川 メールでメッセージを送るだけという時代になつて、手紙とか、はがきをどうやって書くか、分からぬ子供が多いらしい。それじゃあ、いかんといふことで、学校によつては手紙を書く授業をやついているところもあるらしいですよ。アメリカの場合、うちの孫はアメリカの学校なんだけれども、子供におじいさん的手紙を書かせるとか、いろいろなことをやつてしまふよ。

横山 1年生の作文の時間があります。握ったのに、天才じゃないかと思うぐらい、いい字を書く学生もいた。何というかな、実際に思ひ思ひにやつてみるともいなかつた。文章はつづりが間違つててもよくて、発音に近ければいい。「LOVE」でなくとも、「LOUV」でも許すということを書いて大学を卒業する。だか

横山 決まった制度がうやむやになってしまいます。また、ほんとやらぬところもあるようです。ですから、大学でほとんど書写に触れず、現場に出て施するには結局、指導者が必要だということです。大学の教育の方といふものは、いかがですか。

横山 時間から時間、国語教育の中で扱うというシステムをとつていらざります。また、ほんとやらぬところもあるようです。ですから、大学でほとんど書写に触れず、現場に出て施するには結局、指導者が必要だということです。大学の教育の方といふものは、いかがですか。

横山 読売新聞では入社して3か月はパソコンを使わせない。手で書かせる。手で書いた原稿をデスクが直すように指導していま

せたら、書く前に考えなきゃいけないことが初めて分かりましたという。本当に椅子から転がり落ちんばかりに驚きました。(笑)。

横山 その話をよその某有力紙にしたら、同じようにやつたそうです。どうだつたと聞いたら、出先の記者とデスクが初めて会話を始めたと、こう言つたとい

うことです。取材してパソコンで原稿を書く、デスクは来た原稿をパソコンで直して、それを編成する方へ流す。その間、言葉のやりとりゼロ。ただ、パソコンの中の文字の流通だけです。それが手で書くと、ここがよく読めないとか、ここは意味が分からぬとか、電話で聞く。こ

宮澤 正明 氏



IT化で問われる文字文化

てているという姿を、あまり拝見できません。

私は学生たちが日常的に毛筆を使う状況を作ろうと、こんなじりの書を学ぶ時に、学生に手紙を書いてもらい、両親、兄弟に出します。漢字仮名まで試みをしています。

老川 メールでメッセージを送るだけという時代になつて、手紙とか、はがきをどうやって書くか、分からぬ子供が多いらしい。それじゃあ、いかんといふことで、学校によつては手紙を書く授業をやつしているところもあるらしいですよ。アメリカの場合、うちの孫はアメリカの学校なんだけれども、子供におじいさん手紙を書かせるとか、いろいろなことをやつてしまふよ。

横山 1年生の作文の時間があります。握ったのに、天才じゃないかと思うぐらい、いい字を書く学生もいた。何というかな、実際に思ひ思ひにやつてみるともいなかつた。文章はつづりが間違つててもよくて、発音に近ければいい。「LOVE」でなくとも、「LOUV」でも許すということを書いて大学を卒業する。だか

した。うるさい言わないで、書の世界にボツと入れる、何か象徴的なものを見せる。何か象

部の学生たち数十人に集まってもらつて、彼らに筆を使わせた。

ポルトガルでは大学の美術学

校で、日本の書について指導してもらつたことがあります。

老川 読売新聞だけじゃなく

て、よその新聞も同じだからあえて言いますとね、原稿というか、文字を書く経験がないまま新聞社に入つてくる人たちが多いですね。盗用、盗作、そういうケースが相次いだことがあります。どういう原因でそうたんです。どういう原因でそうなるのか調べると、原因はいくつかあるのですが、そのうちの一つに共通するのは、何かを調べる場合、パソコンに頼つていいですね。これ、実話です。

河村 10月27日は「文字・活字文化の日」です。17年に、私どもが提案してできた議員立法で「文字・活字文化振興法」という法律を作つて、その中に初めて言語力という言葉を法律の中に入れました。新聞社では「教育新聞を(NIE)」というのをやっておられます。私の子供の学校の経験ですが、毎日、新聞を読ませるんですね。どの新聞でもいいから、読んだり、

で書かせる。書くことに関心をもつてもらわないと、と思いました。仕方がない。指導する側も指導される側も協力しながら、努力していかなければならぬ。実施するには結局、指導者が必要だということです。大学の教育の方といふものは、いかがですか。

宮澤 教員養成系の大学は、学生たちが教壇に立つた時、どう指導ができるのかを意識しながら取り組まなければなりません。私の小学校時代、当時は師範学校出身の先生がたくさんいましたので、どなたも板書が上手だった。そういう文字環境が学校の中にありました。現

在は毛筆を持って、何かを書い

てくると思います。メールで手紙できちんと書くことの喜びとか、そういうものが大事だといふことを先生が語つてくれるようにならないと。

河村 今回の署名運動等の盛り上がりで、そういう動きが出来れば、教育現場でも重要性が再確認されるんじゃないでしょうか。

老川 私は学生たちが日常的に毛筆で書いて交換させるといふことをやつています。家庭教育の中では、じい、ばあからも孫に教育する、そういう機会をもつと、作つてやるというのも一つの方法かもしれないね。

老川 メールでメッセージを送るだけという時代になつて、手紙とか、はがきをどうやって書くか、分からぬ子供が多いらしい。それじゃあ、いかんといふことで、学校によつては手紙を書く授業をやつしているところもあるらしいですよ。アメリカの場合、うちの孫はアメリカの学校なんだけれども、子供におじいさん手紙を書かせるとか、いろいろなことをやつてしまふよ。

横山 1年生の作文の時間があります。握ったのに、天才じゃないかと思うぐらい、いい字を書く学生もいた。何というかな、実際に思ひ思ひにやつてみるともいなかつた。文章はつづりが間違つててもよくて、発音に近ければいい。「LOVE」でなくとも、「LOUV」でも許すということを書いて大学を卒業する。だか

ら、人の論文であれ何であれ、そういうものを活用することに何ら問題意識がないんですね。読売新聞では入社して3か月はパソコンを使わせない。手で書かせる。手で書いた原稿をデスクが直すように指導していま

せたら、書く前に考えなきゃいけないことが初めて分かりましたという。本当に椅子から転がり落ちんばかりに驚きました。(笑)。

横山 その話をよその某有力紙にしたら、同じようにやつたそうです。どうだつたと聞いたら、出先の記者とデスクが初めて会話を始めたと、こう言つたとい

うことです。取材してパソコンで原稿を書く、デスクは来た原稿をパソコンで直して、それを編成する方へ流す。その間、言葉のやりとりゼロ。ただ、パソコンの中の文字の流通だけです。それが手で書くと、ここがよく読めないとか、電話で聞く。こ

こで初めて会話をできたと言つたんですね。これ、実話です。

河村 10月27日は「文字・活字文化の日」です。17年に、私どもが提案してできた議員立法で「文字・活字文化振興法」という法律を作つて、その中に初めて言語力という言葉を法律の中に入れました。新聞社では「教育新聞を(NIE)」というのをやっておられます。私の子供の学校の経験ですが、毎日、新聞を読ませるんですね。どの新聞でもいいから、読んだり、

で書かせる。書くことに関心をもつてもらわないと、と思いました。仕方がない。指導する側も指導される側も協力しながら、努力していかなければならぬ。実施するには結局、指導者が必要だということです。大学の教育の方といふものは、いかがですか。

宮澤 教員養成系の大学は、学生たちが教壇に立つた時、どう指導ができるのかを意識しながら取り組まなければなりません。私の小学校時代、当時は師範学校出身の先生がたくさんいましたので、どなたも板書が上手だった。そういう文字環境が学校の中にありました。現

在は毛筆を持って、何かを書い

てくると思います。メールで手紙できちんと書くことの喜びとか、そういうものが大事だといふことを先生が語つてくれるようにならないと。

河村 今回の署名運動等の盛り上がりで、そういう動きが出来れば、教育現場でも重要性が再確認されるんじゃないでしょうか。

老川 私は学生たちが日常的に毛筆で書いて交換させるといふことをやつています。家庭教育の中では、じい、ばあからも孫に教育する、そういう機会をもつと、作つてやるというのも一つの方法かもしれないね。

老川 メールでメッセージを送るだけという時代になつて、手紙とか、はがきをどうやって書くか、分からぬ子供が多いらしい。それじゃあ、いかんといふことで、学校によつては手紙を書く授業をやつしているところもあるらしいですよ。アメリカの場合、うちの孫はアメリカの学校なんだけれども、子供におじいさん手紙を書かせるとか、いろいろなことをやつてしまふよ。

横山 1年生の作文の時間があります。握ったのに、天才じゃないかと思うぐらい、いい字を書く学生もいた。何というかな、実際に思ひ思ひにやつてみるともいなかつた。文章はつづりが間違つててもよくて、発音に近ければいい。「LOVE」でなくとも、「LOUV」でも許すということを書いて大学を卒業する。だか

うのは、非常に危険じゃないとい
うことは、有効だし、大いに活
用したらい。ただ、タブレッ
トだけで教育をやればいいとい
うのは、非常に危険じゃないとい
うのが、大事なことです。

横山 小中学校の書写、高等

老川 何でそんなふうに分け

書く・読む習慣づけが大切



老川 祥一 氏

自分が関心を持った見出しを書いてこ
いってこい。そこに何か感想を書
けば一番いいけど、書けない時
には見出しだけでも書いてこい
と。見出しを写して、それを先
生に出すと、先生が一言、二言
添えてまた返してくれる。これは
大事なことだと思います。

私は、フランク・ラムゼイ議員
連盟の会長をやつていて、恋人
に花を贈れ、誕生日に花を贈れ
と言つてますが、やっぱり、ラ
ムゼイは自分で書くぐらいで
ないとな。今は、もうメールを
送つて、ハートをバーンと載つ
ける時代ですけどね、本当にい
いのか（笑）。

老川 教育関係の先生方にお
願いしたいんだけど、電子教科
書を推奨する動きもあって、い
いと言う人もいるんだけども、
私は教科書はあくまで印刷され
たものを使うべきだとと思うんで
すね。もちろん、補助材料とし
てデジタルメディアを使うとい
うことは、有効だし、大いに活
用したらい。ただ、タブレッ
トだけで教育をやればいいとい

と思う。さっき申しだように、
手で書くとか、活字で読むとか、
そういうことがないと、とんでも
もないことになるんじゃないかな。
デジタルメディアの使い方
を、場面をよく考えてやる必要
があると思いますね。



荒船 イスラムの世界なんか

では、デジタルのカリグラフィ
ーが非常に進んでいます。日本
でも、デザイン書道とかグラフ
イック書道とかが、書のマーケ
ットで大きな部分を占めてきて
ます。例えば、インテリアデザ
イナーと一緒に書道家が結託
して、額の文字を書く。いい書
であればいいんですけどね。不
規則なもの普及にも手をかし
てしまつところもあります。本
來の書、伝統的な正統的な書と
いうものがどんどん無視されて
しまうこと大変なことになる。老
川さん、河村先生、宮澤先生が
指摘されたように手紙から入る
のは妙案だと思います。文章を
考えて、書くことでお互いコミ
ニケーションを図る。その根
幹を忘れないためにも、書道教
育を小学1年から始める体制が
できほしい。

横山 小中学校の書写、高等

老川 何でそんなふうに分け

「本格の輝き」学べる現場に



関 芳弘 氏

老川 書写と芸術書道の違い
など、今、教育現場では、どう
なっているんですか。

宮澤 小中学校は国語科書写

という形で、書道は高等学校で
初めて芸術になります。書は文
字を書くという実用性の「用」
の側面と、表現としての「美」
の側面、両方を持っているとい
うことです。文字を学ぶ小中學
校の段階で、最初から美の側面
を強く出していいのか、という
問題がありまして、それで国語
科の中で書写という形で扱っ
てあるわけです。美術と音楽は芸
術教育的なものとして、小学校
から行っていますが、書道は、
高校で初めて芸術という冠をい
たまくわけです。そこから辺りに
小中学校的書写と、高等学校の
書道とのかい離があつたという

老川 そういうふうに分ける
こと自体に、ちょっと違和感を
感じますね。読売書法会は「本
格の輝き」ということを基本理
解されています。

老川 あなた方はまだこの年だか
から出てくるものであつて、こ
こから先是芸術で行きましょう、
あなた方はまだこの年だか
から書写だけでいいんだとか、そ
ういうことじゃないと思うんで

う、あなた方はまだこの年だか
から書写だけでいいんだとか、そ
ういうことじゃないと思うんで

なきゃいけないのですか。
宮澤 戦後、言語教育として
指導を行うということで、こう
なったんですね。小中学校から書
道でやりたいという声が当然あ
ります。これが実際にありました。
週5日制が実施され、芸術科の
単位が削られました。これによ
つて、小中学校的書写・書道か
ら、高等学校の芸術書道に移る
時の橋渡しの基礎が失われたと
いうことがあります。これはい
うなん面でも書道全体にかかわ
る大きな問題を含んでいます。

学习指導要領の改訂で、もう一
度、新しい形や単位数というの
を考えられないものか。今回の
運動を、次は高等学校の芸術書
道といつこまで、つなげた
いと願っています。

老川 そういうふうに分ける
こと自体に、ちょっと違和感を
感じますね。読売書法会は「本
格の輝き」ということを基本理
解されています。

老川 あなた方はまだこの年だか
から書写だけでいいんだとか、そ
ういうことじゃないと思うんで
う、あなた方はまだこの年だか
から書写だけでいいんだとか、そ
ういうことじゃないと思うんで
ういうことじゃないと思うんで

ただ、若干誤解されてきた面
もあるんです。学习指導要領は
決してそういうふうには、なつ
ていい。こういうことが基本
です。このように文字を書く
と整えて書けますよと言つて
いるわけ。こう書きなさい、こう
書きが規範で、これ以外のもの
は認めませんとは全く言つて
ない。子供たちの表現、意識、
あるいは感情というようなもの
も当然入つてくるわけで、それ
を認めないという書写ではない
と思っています。

老川 常用漢字とかと、共通
する問題じゃないですかね。子
供のうちからあまり難しい字を
覚えさせても大変だ。だからこ
の年代はこのページまで、身に
つけさせましょうということ
で。それが逆に、それ以外は教
えちゃいかんとか、使ってはい
けないというような教育になつ
てしまつた。昔の寺子屋で育つ
た農民、町人、商人でさえ難
しい字をちゃんと書いていた
わけです。戦後になって急に、
これは難しいから教えちゃ
いかんとかいうふうにしたこと
が、問題なんじゃないか
と思います。もう一度、そういう
考え方を洗い直して、何が
必要なかという辺りから組み
立て直したほうがいいような気
がしますね。

横山 用と美的つながりとか、書写と書道は難しい問題を

はらんでいます。ただ、基本的

とおりに書かなければならぬ
とか、ぴたっとそろえて書くよ
うにすることをしるために、
書写の学習が紋切り型になり過
ぎている。書道をやっておられ
る方々からすると、恵苦しいもの
を感じるという批判もあるわけ
です。

ただ、うまく描こうと思つちゃだめ
だ、うまく描いたりだめだと教
えられたといいます。自身の内
心でやりたいという声が当然あ
ります。これが実際にありました。
週5日制が実施され、芸術科の
単位が削られました。これによ
つて、小中学校的書写・書道か
ら、高等学校の芸術書道に移る
時の橋渡しの基礎が失われたと
いうことがあります。これはい
うなん面でも書道全体にかかわ
る大きな問題を含んでいます。

老川 日本書芸院の図録『20
世紀に輝く文化人の書』を拝見
すると、小説家であり、学者で
あり、いろんな方々の書があり
ます。やっぱり毛筆の書と

いうのは個性そのもの、人格
や、その人生経験とかが出て
いるわけです。その人たちば
小学、国民学校の時は書写
だけ、高等学校に入つて芸
術書道になつたとか、そんな
区分けで育つたんじゃないと
思つんですね。

河村 書道の中の藝術性、こ
れを追求していかれるというこ
とも、あつてほいいと思ひます
けれども、まずは文字文化として、
いわゆる書道ですね、筆を持
つて書くということが基本で
そつちへ行くというものではな
いだろうと思います。広い意味
では、そういうところまで極め
る、関心を持つ、書道の世界は、
そこまで広いんだということを
知るべきで、教育の中で何らか
の形で教える必要はある。

日本の伝統文化の中に書があ
つて、これはアジア圏共通の文
化でもあるわけですね。モン
ゴルあたりも今、書道展をや
るようになつてますから、これを

大事にしなきゃいけん。最近、
韓国はあまり漢字を使わなくな
ってきました。中国も新漢字で
書道を教える先生と漢文

の先生が一緒というのには高等学
校はまだ多いのではないか
ね。私が教わった書道の先生は



吉川 蕉仙 氏

個性を発信 芸術性の芽生え

漢文の先生でした。そういう書道の深さ、広さというもので、日本人としての文化、教養の一つとして、しっかり学ばせることで、日本人の皆さんにも教育の中ではならないし、国語の基本の中には、絶対にやる課題ですよね。

荒船 ヨーロッパのカリグラフィーはHORIZON、ほとんど水平の動きしかない。毛筆のほうは、上下から斜めから対角線からいろいろできる道具ですね。これが芸術も産み、また芸術的な人が書いても個性が出てきてその人間が分かる。その中間が、イスラムのカリグラフィーですね。

『20世紀に輝く文化人の書』

の中で、高村光太郎さんが、仮名書きの美は日本書道特有のもので、こんな面白い自由な文字の美は、世界でペルシャ文字の装飾美のほかに肩を並べるものもないとおっしゃっています。確かにイスラムのカリグラフィーの場合特にペルシャのカリグラフィーというのが流麗な文字

力。日本文化をいろんな面で発信していくためにも、書というものは重要な柱になる。この書写・書道文化というのを我々は、今の時代だからこそ、守り育てていかなければなりません。最後にメッセージを。

宮澤 1980年代までは毛筆で書かれていたのが多かった。それが80年代の少し前ぐらいいから、丸ゴシックになつた。その後のプレートは毛筆的なタッチで書かれていたのが多かつた。それが80年代の少し前ぐらいいから、丸ゴシックになつた。

非常に減ってしまった。これは中学校の書写のあり方に起因す

るんじゃないかなと思う。もし中

学校で行書あまりやらず、高

等学校で書道を選択しないとな

ると、日本人の多くが行書を学

ばないで社会人になつてしま

う。中学校の書写の充実、これは書き文字文化を支える意味で非常に重要な課題だと思っています。

荒船 一言で言いますと、小学校1年生から毛筆に親しんでもらうことですね。私は、幼稚園のころから父に手ほどきを受けたんですけど、隸書から始めさせられたんですね。父は、そのほうが筆力が出るからといふことで、それがいいのか悪いのか、父も書は素人、趣味の人でした

国際化時代こそ筆を持つ

非常に減ってしまった。これは中学校の書写のあり方に起因するんじゃないかなと思う。もし中学校で行書あまりやらず、高等学校で書道を選択しないとなると、日本人の多くが行書を学ばないで社会人になつてしまふ。中学校の書写の充実、これは書き文字文化を支える意味で非常に重要な課題だと思っています。

吉川 日本書芸院は先日、「手書き文化の日々ちなみ、手書き文字ばんざい!」と「手書き文字ばんざい!」というイベントを催しました。

小さな子供が、立派に字を書くんですね。筆を持つのがいいくんですね。筆を持つののが、おじいさん、おばあさんも来て、家族的にわいわいやっていくと思います。

毛筆の特性を生かした動きの中、1本の線というのは、小さな子供であっても、おじいさん、おばあさんであっても、全く同じような線を見ることができない。それぞれが、それぞれの線を引つ張る。子供が自分のやりたいこと、自

道の深さ、広さというものを、次の世代の皆さんにも教育の中ではならないし、国語の基本の中には、絶対にやる課題ですよね。

荒船 ヨーロッパのカリグラフィーはHORIZON、ほとんど水平の動きしかない。毛筆のほうは、上下から斜めから対角線からいろいろできる道具ですね。だから日本

の書道がヨーロッパにもイスラムにも非常に影響を与えてい

る。

横山 国際社会における発信力。日本文化をいろんな面で発信していくためにも、書というものは重要な柱になる。この書写・書道文化というのを我々は、今の時代だからこそ、守り育てていかなければなりません。最後にメッセージを。

宮澤 1980年代までは毛

筆環境として残っていた。駅の

名前のプレートは毛筆的なタッ

チで書かれていたのが多かつた。それが80年代の少し前ぐら

いから、丸ゴシックになつた。

吉川 1980年代までは毛

筆で書かれていたのが多かつた。それが80年代の少し前ぐら

特集

児童わくわく毛筆体験

生駒台小2年生 「公開授業」

奈良県生駒市立生駒台小学校（福岡ひとみ校長）で平成26年12月8日、2年生を対象にした毛筆の「水書の公開授業」が行われた。現行の学習指導要領では1、2年生の書写教育（国語科）は、硬筆で行われており、低学年の毛筆授業は関西で初めての試み。児童は「もっと書きたい」「鉛筆より書きやすかった」と感想を話していた。



渦巻きの線書きもマスター

毛筆を用いた書写教育を小学
校低学年から充実させようと活
動している公益社団法人日本書
芸院が、毛筆授業の実践を生駒
台小学校に依頼し、同校の協力
を得て実現した。低学年は普段、
墨や筆を使って字を書く授業を
受けないため、服装が汚れ
ないように配慮し、水でも墨で

大興奮「もつと書きたい」

練習。初めての子も、すぐに、
マスターして、筆を持って、水
書用紙に向かった。

「穂先をとがらせて、細い線
を書きましょう」と、諸岡教諭
が手本を示すと、児童もいっせい
に、自由な線書きに挑んだ。
「先生みたいに書けない」と言
つていた子も、何本も線を書く
うちに「できた、できた」と声
をあげて、大喜び。

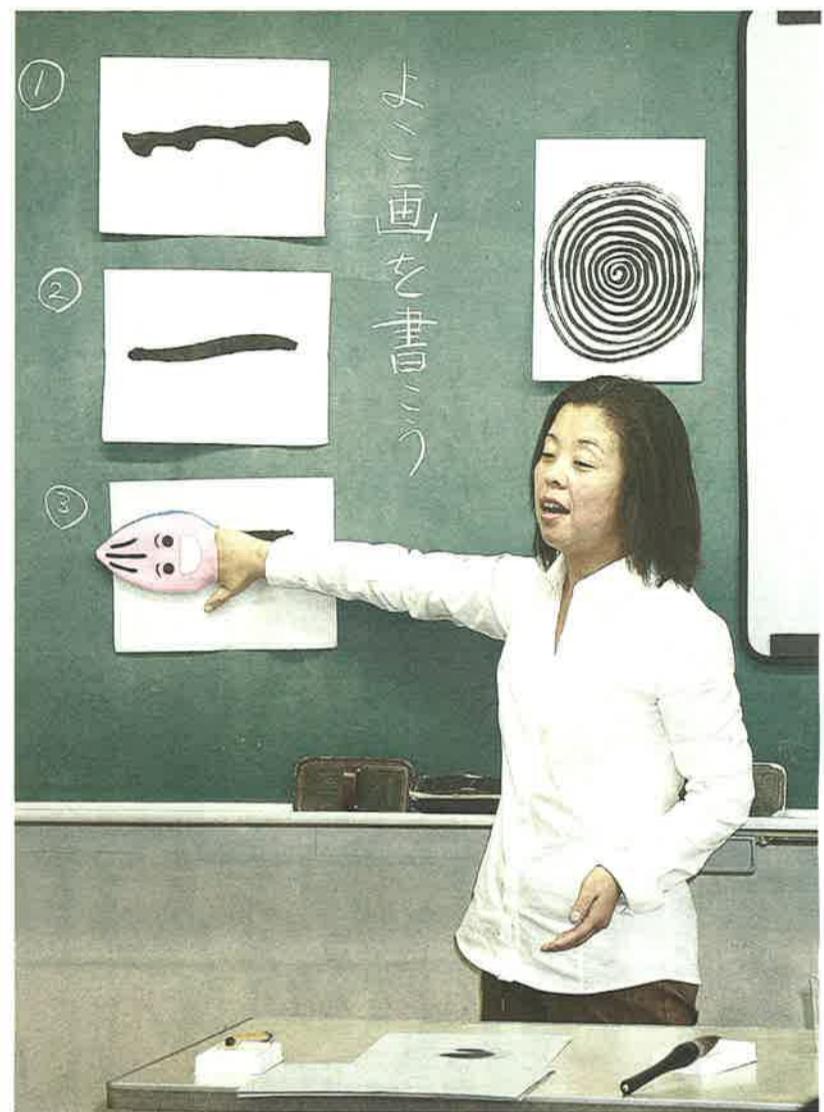


毛筆で書くのは楽しいね

終筆を学んで、45分間の授業が
終了。児童からは「もつと書き
たい」「面白かった」の声が上
がった。

諸岡教諭は「今年度中に2年
生の全クラス（5学級）で、水
書の授業を実践します」と言い、
福岡校長も「子供たちも楽しみ
ながら、筆の特長を理解してく
れたのではないでしょうか。い
かいきと学んでいた姿がよかつ
たです」と話していた。

公開授業には日本書芸院の関
係者も参観。授業を振り返って、
「毛筆は字を覚えることに『と
め』『はね』『はらい』を理解
させることにつながる」「指の
力の弱い低学年が硬筆で力を
入れて書こうとすれば、変な
書き癖がつくことがある。書き
癖がつく前に正しい執筆姿
勢を学ぶためにも低学年から
の毛筆が必要だ」「毛筆だと
筆圧をコントロールすること
を学べる」などと今回の意義を
語っていた。



「穂先ちゃん」を手に持って筆の動かし方を指導



真剣な表情で取り組む

特集



日本書芸院の関係者も公開授業を参観



楽しく筆の特長学ぶ

公開書写指導を参観して
公益社団法人日本書芸院常務理事・書写書道教育推進部部長

岩永 栖郁

書写・書道教育推進協議会や日本書芸院など書道界が一丸となつて行つた「書写・書道教育に関する要望書」の署名活動には94万人を超える賛同が集まり、書写・書道教育の発展を願う多くの方々の思いを文部科学省、中央教育審議会に届けることが出来ました。その署名の柱になつてゐたのが「小学1年から毛筆を用いた書写教育の充実」でした。

硬筆で「とめ」「はね」「はらい」を教えるより、毛筆で指導する方が教えやすい。用筆の

基本は書き癖がつく前の低学年で行なうことが大切なことは誰しもそう思つのですが、果たして

児童が約半数いましたが抵抗なく授業に入れました。

各府県でも取り組みを

が、第一歩とすることを考えた次第です。

公開授業を参観した感想です

五・3年時から始まる墨を使用した毛筆書写も水書体験があれどスムーズに導入でき、上達の度合いによつては1・2年時からの墨書も可能になるのではないかと感じます。

四・道具が扱いやすいので机上の整理ができ、毛筆と同時に硬筆も使う、硬毛一体の授業展開が出来やすいと思われました。

五・3年時から始まる墨を使用した毛筆書写も水書体験があれどスムーズに導入でき、上達の度合いによつては1・2年時からの墨書も可能になるのではないかと感じます。

六・道具が扱いやすいので机

実践してみて感じたこと

生駒台小学校教諭 諸岡 恭子

「わあ、すごい」「まほつの紙」「ふしきな紙」「よつし、やるぞ!」「ほさきちゃん」。

公開授業のあつた次の日に書いた2年生の子どもたちの作文の題名です。子どもたちは、水で書ける水書用紙に感動し、大興奮でした。

現行では3年生が毛筆指導の最初です。道具の並べ方、道具の使い方、道具の片付け方の細かい指導から始まります。筆を使つて書きたいと思って学習に臨んでいる子どもたちにとっては、うずうずして待ちきれない時間になつています。

けれど教員にとっては、教室や服を汚さないようになるとでも気を使う時間になつてしまつます。

それが、今回のような水書用紙を活用することで、すぐに書



筆の持ち方も重要なポイント

ました。穗先の向きを変えて書き、筆で書けるいろいろな線を体験しました。その後、何重の渦巻きが書けるかに挑戦しました。そうすると、子どもたちの筆の持ち方はどんどんよくなっています。

最後に、横画の「一」の、始筆、終筆の穗先の向きに注目する、始筆、送筆、終筆のスピ

がどこを通るのか、など書の基本を短時間に習得していました。

三・「水書」なので用具の扱いが非常に簡便で、指導する先生の負担が軽減されていると感じました。

ぐんぐん上達 満足げ

これまで低学年では、硬筆での「とめ」「はね」「はらい」の学習を分かりやすくするためにフェルトペンを活用してきました。

この授業では、自由な線書きはじめることができ、筆の持ち方や特長をじっくり学習することができました。

今回の授業では、自由な線書きから、細い線、太い線を書き

ました。しかし、今回、水書用紙を活用して、1年生のスタートの線書き練習から筆を使うと、もっと分かりやすくて線の違いを感じました。

した。しかし、今回の水書用紙を使用して、1年生のスタートの線書き練習から筆を使うと、意外と水書用紙の乾きが遅いことでした。濡れたままの用紙を重ねることができず、机に並べたり床に並べたりしました。授業終了後、用紙を乾かす場所を確保するのも大変でした。専用の収納ケースも作つていただき、濡れたままの用紙を重ねるとありがたいなと思いました。

いかと感じました。

今回の授業を拝見し、その確かな効果と意義を感じているところです。関東地区ではすでに

2・3の小学校で年間計画を作つて実践しているところがあるようになります。日本書芸院とともに大阪、京都、兵庫、岡山の各府県でもこの実践授業が行われるよう取り組みたいと思っています。書写・書道教育発展のため、皆様には今後ともご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申上げます。

京都・伏見工高からラグビーを始め、同志社大に進んだのですが、書とのかかわりを振り返ると、大学時代にひとつの大切な出逢いがありました。

高校ラグビー部の恩師・山口良治先生の友人関係の中である詩人・書家の先生と縁を頂きました。その先生の個展にお邪魔した時、展示されていた作品の、独特の書体を見て、思わず勝手なことを言いました。

「こんな文字だったら、僕でも書けるのではないですか」と。先生はこう言われました。「書けると思いましたよ。でも、この一枚を仕上げるためには、私は何千枚も書いてきました。気に入ったのはこの一枚だけなのです。ラグビーのプレーだって、同じじゃないですか」。それを聞いて、本当にそうだと思いました。

社会人の神戸製鋼では日本選手権7連覇に貢献できました。



芦屋学園
理事長 大八木 淳史 氏

の練習をしているとの自負があつたからです。

30歳代の最後に、もう一度勉強をしなければ「40歳以降の自分は成立しない」と思いました。そこで、母校の大学院総合政策科学研究所で学び、「次世代を担う子どもたちの人間形成・人格陶冶がこれから自分にミッションになる」と考えたのが、今につながっています。

当時はワープロからパソコンへの移行期だったと思います。そうしたツールが苦手な私はもっぱらノートに手書きでした。最初はどんな本を教材にして、何を書いたらいいのか分からずに悩みましたが、指導教授である

横山勝彦先生からこんな言葉をかけて頂きまし
た。「ひとつの競技で、日本代表にまでなったのだから、礼儀はもとより、スポーツに関して確かな考え方

おおやき・あつし

1961年、京都市生まれ。元ラグビー日本代表。

香川大客員教授などを経て、芦屋学園中学校・高校校長。

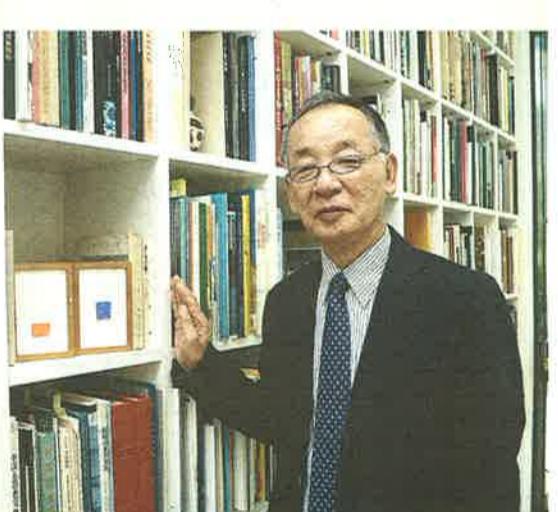
持っているはず。スポーツを通じて学んだ考え方、学術的な理論に落とし込んでいます。大八木さんなら必ずできます」。そう聞いて、気持ちが楽になりました。大学院での2年間は本当によく勉強して、文字を書いた

と思います。

今は、中学、高校の校長、学園理事長として教育に携わっています。リーダーとなる人材の育成とともに、家族や地域といった小さなコミュニティにおいて「人としての役割を果たす」とに幸せを感じる人間性」を育てたいと思っています。一生勉強ですね。

今日は、中学、高校の校長、学園理事長として教育に携わっています。リーダーとなる人材の育成とともに、家族や地域といった小さなコミュニティにおいて「人としての役割を果たす」とに幸せを感じる人間性」を育てたいと思っています。一生勉強ですね。

兵庫県立美術館長
蓑 豊 氏



海外の芸術家も

“書”から影響

ます。10歳、小学4年生の頃が人の人生で最も感性が育まるというのが私の持論です。でも、今の学校教育を見ると、入試問題に出ないものは勉強しなくてよいという風潮が強い。書でも、美術でも、音楽でも、子供時代に「本物の良さ」に触れさせ、感性を磨くことがあります。ノーベル賞とか、いろんな発見や発明も、感性がないとできない。

米国の現代アーティストも、実は中国や日本の書の影響を受けている人が多い。「いいものはいい」というのが分かるのでしょうか。私の専門は中国陶器ですが、書も好きです。大阪市立美術館時代には「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」展を企画しました。大阪市立美術館時代には「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」展を企画しました。大阪市立美術館時代には「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」展を企画しました。大阪市立美術館時代には「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」展を企画しました。

1941年、金沢市生まれ。兵庫県立美術館館長、横尾忠則現代美術館館長、あべのハルカス美術館館長、大坂市立美術館名譽館長、大坂市立美術館名譽館長、金沢21世紀美術館特任館長。シカゴ美術館東洋部長、サザビーズ北米本社副会長などを歴任。専門は中国陶器。

す。10歳、小学4年生の頃が人の人生で最も感性が育まるというのが私の持論です。でも、今の学校教育を見ると、入試問題に出ないものは勉強しなくてよいという風潮が強い。書でも、美術でも、音楽でも、子供時代に「本物の良さ」に触れさせ、感性を磨くことがあります。ノーベル賞とか、いろんな発見や発明も、感性がないとできない。

いふことは、中国や日本の書の影響を受けている人が多い。「いいものはいい」というのが分かるのでしょうか。私の専門は中国陶器ですが、書も好きです。大阪市立美術館時代には「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」展を企画しました。大阪市立美術館時代には「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」展を企画しました。大阪市立美術館時代には「海を渡った中国の書エリオット・コレクションと宋元の名蹟」展を企画しました。

大切さ伝えたい

の個性や人柄がじみ出ます。人を引きつけ、心を伝え、各界で活躍している方々に語ってもらいました。

の個性や人柄がじみ出ます。人を引きつけ、心を伝え、各界で活躍している方々に語ってもらいました。

高校時代は、教員時代から書の勉強を始めたのは、平成20年に春日大社の宮司に迎えられてからです。今は日々、心を込めて書に向かい、上達しています。生徒がノートをめいて書に向かい、上達したいという思いで励んでいます。

手書き文字の大切さを

受けたのかが、伝わってきます。中にはデザインぽく色を付けたり、「♡」や「☆」のマークを付けたりする子もいる。人そぞれですが、自分に

つけ大切だと思ったこと

春日大社は平成27年、28

年に第60次の式年造替の儀



春日大社宮司
花山院 弘匡 氏

式年造替も伝統を継承

分かります。そして、20代半ばで造替にかかるなります。人間同士の距離が次第に遠くなっていくような気がします。それが心配ですね。

がら話すこともなく、铁砲なようですが、せつかのチャンス、とにかくやってみようと、その一心で、30年以上も海外で生活し、3大メジャーの一つ、シカゴ美術館の東洋部長も務めました。シカゴ美術館時代は米国の有力紙、シカゴ・トリビューンが選定する、芸術分野で市に最も貢献した「シカゴアン」に挙げられました。今、思えば、好奇心の旺盛な少年時代の感動が出発点でした。

その20年後、40代半ばを迎えた頃、最高の技術を持って棟梁として造替を指揮し、後進に技を継いでいく。人と人、世代

の大きな変化があります。中にはデザインぽく色を付けたり、「♡」や「☆」のマークを付けたりする子もいる。人それぞれですが、自分につけ大切だと思ったこと

がいる。人間同士の距離が次第に遠くなっていくような気がします。それが心配ですね。

の人はこの現象を見て、畏敬の念を抱いたのではないかと直感しました。なぜ、こんな現象が起きるのか。

自分を表現

第10回 手書き文字ばんざい！

「第10回手書き文字ばんざい！」が、平成26年10月19日、大阪市中央区のOMMビル展示ホールで開催されました。今回のテーマは「心」で、約220人の親子らが参加し、子供も大人も、心を込めて、それぞれの文字を力いっぱい、書き上げました。



力いっぱい筆走らせる

大会は、平成26年の「第68回日本書芸院展」で、魁星作に選ばれた西村大輔・本院評議員の揮毫で始まり、「字は心を表す」と力強く書き上げました。西村評議員は「手書きの文字には、気持ちや息づかいを伝える力があります。それが手書きの面白さであり、難しさもあります」と作品に込めた思いを語りました。続いて、読売新聞大阪本社の窪田邦倫・専務取締役事業部長が、主催者を代表して



あいさつ。「手書き文字は、パソコンの文字と違って、一人ひとり、違うところがあるのが素晴らしい。今日この会場には、日本を代表する書家の先生がたくさんいらっしゃいます。書の楽しさや素晴らしいところに書いてもらいたいのか、ぜひ質問してください。また、家族や友達とも、書を通じて対話を楽しんでほしいと思います」と話しました。

その後、参加者は今回のテーマである「心」にまつわる漢字などを書きました。さ

まな書体で書かれた「心」「思」「快」などのお手本から、それぞれ好きな文字を選んで書き上げました。一画ずつを慎重に書いたり、よく筆を動かしたりと、思い思いの書き方で取り組み、家族や友人、先生と相談しながら





参加者の声

人前で書くこと
／書道楽しいから続けたい

大阪府豊中市の小学5年、伏田柚希さん(11)は、書道教室の先生の勧めで初めて参加了。『思』の文字を先生のアドバイスを受けながら書き、「難しいけれどきれいに書けた時がうれしい。続け字にも挑戦してみたい」と話しました。母の貴子さんは、「文字には人間性も表れると思うので、字のきれいな人になってほしい。こうして人前で字を書くというのはいい経験になると思います」と参加した意義を話していました。

奈良県生駒市で書道教室を開く相原紫藤さんは、教え子たちを連れて7回目の参加。「提出する作品のほか、記念品に文字が書けるのも面白い。普段の生活に書を取り入れられるいい機会です」と語り、6人参加した教え子のうち、小学3年の国光玲花さん(9)は、「上手になってくると字を書くのが楽しくなる。お母さんは嫌なら辞めてもいいと言うけれど、楽しいので続けていきたい」と書道に対する前向きな姿勢を見せっていました。

参加者一人ひとりが、自分の文字と向き合い、手書きの文字の魅力を改めて感じられる大会になりました。

【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、
大阪市教育委員会、NHK大阪放送局、
読売テレビ
【協賛】あかしや、大阪市教員会館、呉竹、
サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、
パイロットコーポレーション、
ぺんてる、墨運堂(50音順)

心込めて

書きの文字
手書き、文字
写・書道ってすばらしい
字を書こう
の美しさは
文化のバロメーター



作品提出後、「第9回全日本小学生・中学生書道紙上展」と「第19回全日本高校・大学生書道展」の優秀者による学生代表の揮毫がありました。会場は終始にぎやかな雰囲気に包まれ、幅広い年代の人が手書き文字を楽しみました。

最後に、吉川蕉仙・本院理事長が「今日、書き上げられた作品を見ていると、それぞれ人の顔を見ているような気持ちになります。これは筆と墨の魔術といえるかもしれません。スマートフォンやパソコンは、つい便利だから使ってしまいますが、そこに表れる文字は画一的。血が通った文字にするには手で書くことが大切です。下手は関係ないので、思いを込めて文字を書きすることを楽しんで下さい」と話しました。

参加者には記念品としてハンカチが配られ、5色の染料を使って、自分の名前や好きな言葉を書いて持ち帰りました。会場後方には寄せ書きコーナーが設置され、子供たちは、筆やクレヨン、絵の具で大きなパネルに『平和』『希望』などのメッセージを書きました。



好きな言葉寄せ書きに

「第10回手書き文字ばん

ざい！」の作品は、平成26年11月14日から16日まで、大阪市中央区のNHK大阪放送局1階アトリウムで展示されました。3日間で345人が見学し、訪れた人は、「子どもたちの文字が

示されました。45人が見学し、訪れた人は、「子どもたちの文字が

は、「子どもたちの文字が

いるので、上手な人の作

品が参考になる」などと話

して、作品に入っています

た。

ら生き生きと書いた様子が

伝わってくる」「低学年の

子でもうまく書くことに驚

いた」「自分は書道を習っ

ているので、上手な人の作

品が参考になる」などと話

して、作品に入っています

た。

NHK大阪でも展示

第9回 全日本小学生・中学生書道紙上展

平成26年の「第9回全日本小学生・中学生書道紙上展」(公益社団法人日本書芸院、読売新聞社主催)に全国から1万7562点の応募があり、各学年ごとに「ベスト100」が選ばれました。このうち、優秀作品45点(各学年5点)を掲載します。また、各学年の代表者は、同年10月19日、大阪市のOMMビル展示ホールで開かれた「第10回手書き文字ばんざい!」に参加し、揮毫しました。



紙いっぱいに 元気あふれる

【審査】

日 時 平成26年(2014年)9月22日(月)
会 場 OMMビル2階 会議室
審査員 本院理事長・吉川蕉仙、本院副理事長・黒田賢一、真神巍堂、今村桂山、高木厚人、横山煌平、読売新聞大阪本社専務取締役事業本部長・窪田邦倫

【選考内容及び賞】

- 全作品から各学年優秀作「ベスト100」・「準ベスト100」を選び認定証を授与。
- 図書カードは各学年「ベスト100」・「準ベスト100」受賞者に贈る。
- ベスト100受賞者作品を掲載した小中展新聞を出品者全員に贈る。

【成績発表】

11月中旬。読売新聞紙上及び本院ホームページにて発表、12月中旬各代表者に成績通知を郵送。

出品点数 1万7562点

学年別

小学1年生	973点	小学2年生	1835点	小学3年生	2383点
小学4年生	2758点	小学5年生	2797点	小学6年生	2646点
中学1年生	1646点	中学2年生	1380点	中学3年生	1144点

第10回 全日本小学生・中学生書道紙上展(予告)

【作品受付】平成27年(2015年)8月31日(月)締切
※同日消印有効

【出品資格】小学校・中学校の児童・生徒
(平成27年8月31日作品受付締切時)
※代表者の住所は日本国内に限る

【部門】小学1年生の部から中学3年生の部まで、各学年を部とします(9部門)

【出品料】無料

【紙の大きさ】半切(はんせつ)

【主 催】公益社団法人日本書芸院・読売新聞社

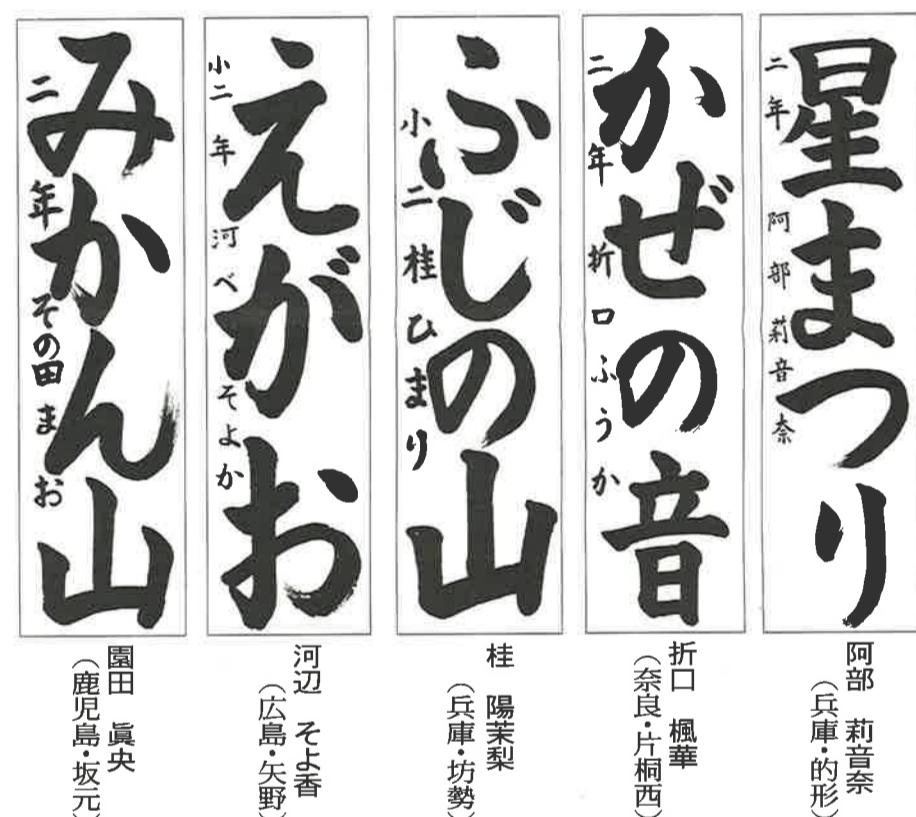
【後 援】文部科学省(申請予定)

■作品応募要項の詳細はホームページでご確認ください。
<http://www.nihonshogeiin.or.jp> (4月以降)

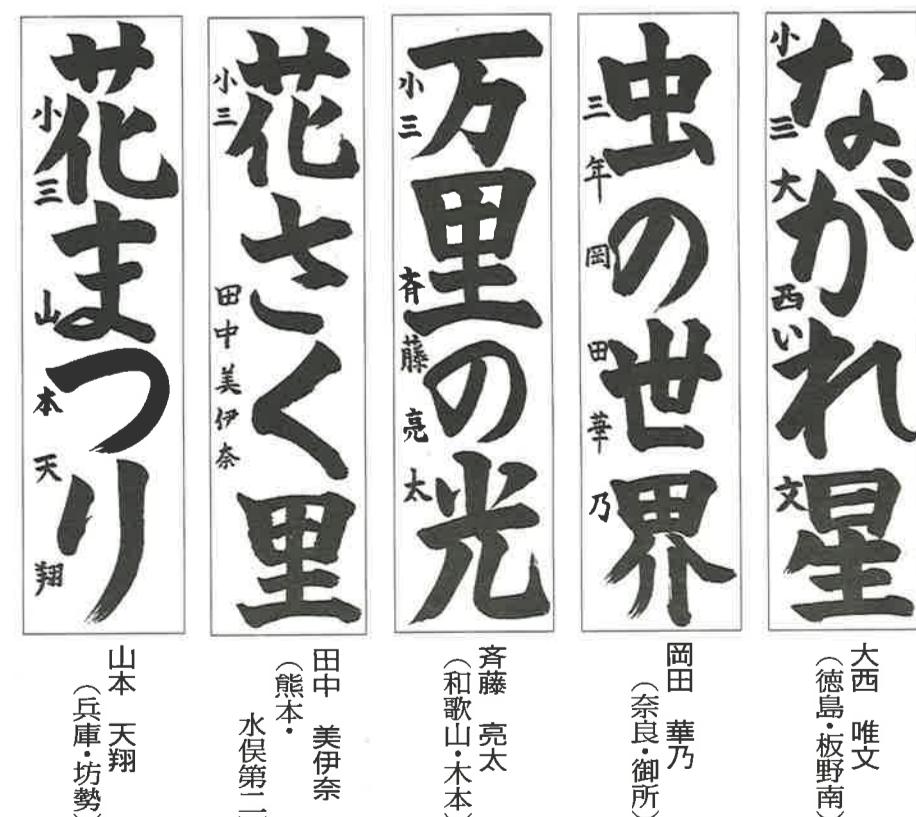
小学1年



小学2年



小学3年



第9回 全日本小学生・中学生書道紙上展

中学1年

書芸墨美
中一
平川香恋

博愛の精神
中一
西嶋香菜

無以加其前穎子漁道勿莫邁
其後日就月將若望舒邊覩年
成歲秀若騰曠潔草松
左:西嶋香菜
右:多田南香

至人無為大聖不作彼竭
其力我享其功者也
中一
西嶋香菜

記事の取材
中一
越宗あみ

小西
(兵庫・岡山・赤坂)

優羽奈

(武庫川女子大付属)

実りの秋
四年
山本真子

山本
(山口・高森)

真子

(関西創価)

流れう雲
四年
野元かれん

野元
(大阪・山口)

華蓮

(愛媛・立花)

春の山里
四年
野田悠斗

野田
(愛媛・立花)

悠斗

(香川・宇多津北)

生きる力
四年
高倉茉蓉

高倉
(香川・茉蓉)

宇多津北

天空の光
四年
大浦侑季

大浦
(和歌山・直川)

侑季

中学2年

漢周
象制道佐應聘
天闕雷端可見
河乃見徵不臻
通往血雖部
春秋書著紀
未然未定
左:安井智紀
右:安井智紀

復興桜植樹
中二
希子

感慨係之矣向之所欣俛仰之間
以爲陳迹猶不能不以之興懷况
脩短隨化終期於盡
左:弘前大教育学部付属
右:青森・希子

太和九年十一月使持節司空公長樂王
丘陵陵亮夫人尉遲爲上息半裸請工鑄
鄉膳造此弥勒像一區額牛裸捨於今段之
若存生於天
左:甲斐友梨香
右:福岡・奈央

其或瞻劉如鐵裸際
明霜酌觥約之
五九湖中二
田美友梨香

甲斐
(宮崎・五ヶ瀬中等教育学校)

友梨香

(五ヶ瀬中等教育学校)

豊かな緑
五年
渡辺みづほ

渡邊
(岡山・里庄西)

みづほ

希望の光
五年
山本萌恵

山本
(岡山・福田)

萌恵

緑の地球
五年
高司萌恵

万里の光
五年
篠原愛衣子

緑の大地
五年
倉本亞由香

倉本
(和歌山・神倉)

亞由香

中学3年

豐穰の喜び
中三
古川美奈

青松勁挺安凌霄耻居豎種出枝葉牽
連上松端秋花起烽烟旆旌雲錦殷然
自立舒光射丸相見吐子效
左:古川美奈
右:多田美奈

江亭繫馬綠楊短野
岸維舟春草齊
左:長嶺響
右:岐阜・日菜多

鸞飛鳳舞
三年
萱野未於

萱野
(福岡・城山)

未於

(福岡・城山)

長樂無極
六年
中沢佐紀

中沢
(岡山・吉備)

佐紀

行雲流水
六年
竹内瑠菜

竹内
(和歌山・雜賀)

瑠菜

夢と希望
六年
近藤乃愛

近藤
(秋田・五城目)

乃愛

書海墨光
六年
鬼束あかね

友情を築く
六年
石井星那

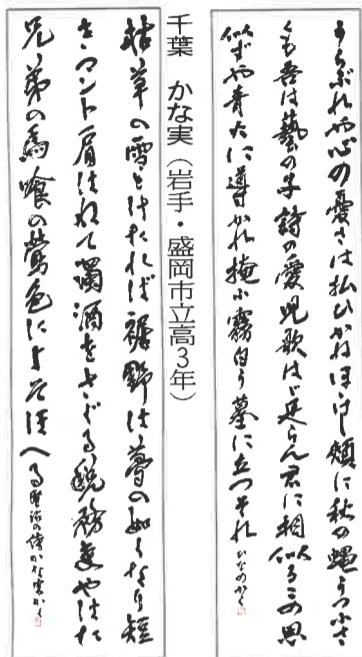
石井
(香川・十河)

星那

第19回 全日本高校・大学生書道展

日本書芸院と読売新聞社主催の「第19回全日本高校・大学生書道展」(平成26年)は、漢字、かな、調和体(漢字、かな交じり文)、篆刻(てんこく)の4部門に前年より678点多い、計1万960点の応募がありました。最高賞の全日本高校・

大学生書道展大賞51点をはじめ、同展賞347点、優秀賞719点が選ばれました。入選作1117点は8月19日から24日まで、大阪市立美術館で展示され、最終日の24日にリーガロイヤルホテルで授賞式が行われました。



若さあふれる筆致



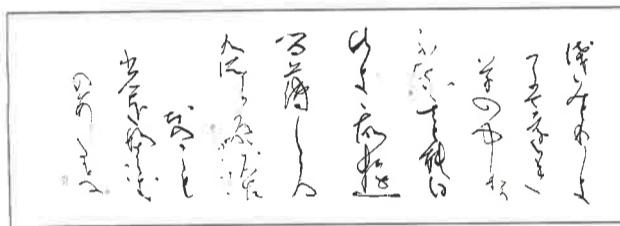
別所 志保 (大阪・帝塚山学院高3年)



横田 晴海 (福岡・東福岡高3年)



白石 佳奈子 (大分・大分高3年)

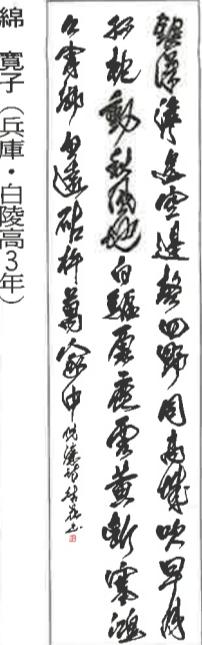
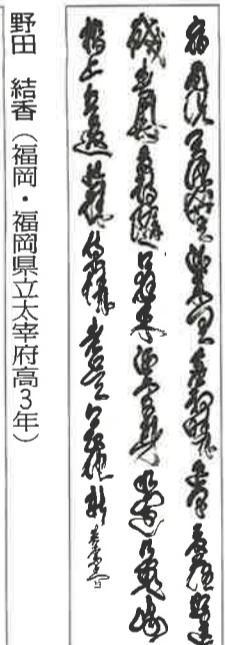
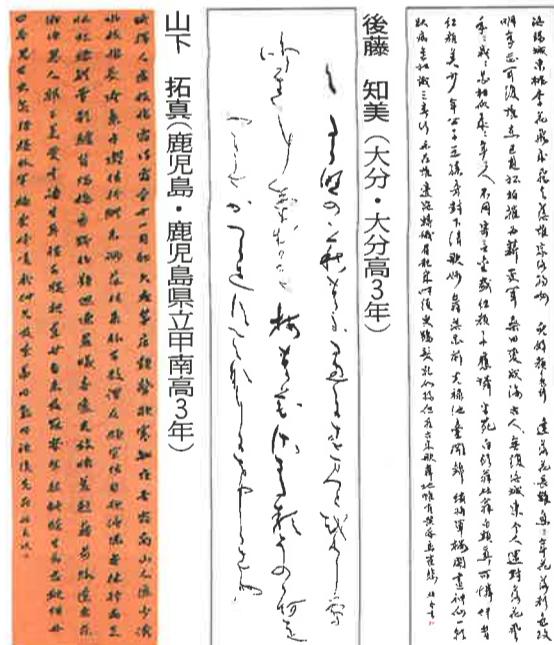


鈴木 愛梨 (岡山・岡山県立倉敷青陵高3年)



田上 彩乃 (兵庫・武庫川女子大付高3年)

高校生



村木 優唯 (岩手・岩手県立盛岡北高3年)

【審査】

日 時 平成26年(2014年)7月14日(月)
会 場 マイドームおおさか 1階
審査員 読売書法会常任総務・新井光風、樽本樹邨、本院理事長・吉川蕉仙、本院副理事長・黒田賢一、真神巍堂、今村桂山、高木厚人、横山煌平、読売新聞東京本社取締役事業局長・河田卓司、読売新聞大阪本社専務取締役事業部本部長・窪田邦倫

【審査結果】

個人賞	全日本高校・大学生書道展大賞	51点
	全日本高校・大学生書道展賞	347点
優秀賞		719点
準優秀作品		2999点
優良作品		6844点

出品点数 1万960点

○種別

- 第1種 6565点 (2×8、2.6×6、4×4)
- 第2種 4198点 (全紙、聯落)
- 第3種 197点 (篆刻)

団体賞 高等学校の部

最優秀校	大分高等学校 (大分)
優秀校2位	盛岡市立高等学校 (岩手)
優秀校3位	明誠学院高等学校 (岡山)
第4位	奈良県立桜井高等学校 (奈良)
第5位	鹿児島県立甲南高等学校 (鹿児島)
第6位	岩手県立盛岡第一高等学校 (岩手)
第7位	岩手県立福岡高等学校 (同)
第7位	岩手県立水沢高等学校 (同)
第9位	埼玉県立松山女子高等学校 (埼玉)
第10位	東京都立板橋有徳高等学校 (東京)

団体賞 大学の部

最優秀校	京都橘大学 (京都)
優秀校2位	大東文化大学 (東京)
優秀校3位	奈良教育大学 (奈良)
第4位	四国大学 (徳島)
第5位	岐阜女子大学 (岐阜)
第6位	帝京大学 (東京)
第7位	中京大学 (愛知)
第8位	京都教育大学 (京都)
第9位	立命館大学 (同)
第10位	花園大学 (同)

第20回 全日本高校・

大学生書道展(予告)

【作品受付】平成27年(2015年)6月15日(月)締切 ※同日消印有効 必要資料をご請求の上、作品とともにお送り下さい。

【出品資格】高校・大学等の在籍者など中学校卒業以上25歳までの学生あるいは進学準備中の方(平成27年6月15日現在)。

※代表者の住所は日本国内に限る

【会期】平成27年 8月18日(火)~23日(日)

【会場】大阪市立美術館 地下展示会室(天王寺公園内)

【主催】公益社団法人 日本書芸院・読売新聞社

【後援】文部科学省(申請予定)

◇陳列 大賞・展賞・優秀賞を陳列します(約1100点)。

◇授賞式 展覧会最終日に授賞式・祝賀パーティーを開催します。

■作品応募要項の詳細はホームページでご確認下さい。<http://www.nihonshogeiin.or.jp> (4月以降)

第19回 全日本高校・大学生書道展



平成26年 全国シルバー書道展



96歳 杉橋てつさんの作品

93歳 前田牧川さんの作品

第27回シルバー書道展滋賀展
は4月25日から27日まで、大津市歴史博物館で開催され、307人(男性65人、女性242人)が出品した。京都、大阪の両府からの参加もあり、出品者は昨年を6人上回った。力強い作品や洗練されたハイレベルな書が並び、約1000人の入場者ら

前田さんと杉橋さんは漢字で「松竹水聲涼」と書いた。松竹の緑を映した流れの音はひときわ涼しいという意味で、筆さばきは、清流を連想させるような美しさだった。杉橋さんは漢字とかなを交えた調和体で「歳かさね廻り年なり午の春」とバランス良く書き上げた。含蓄あふれる言葉に、入館者らは足を止めて見入っていた。

ほかにも、「乾坤一擲(けんこんいつてき)」と思ひを込め美び、約1000人の入場者ら

人柄じわり味ある作品

滋賀展

高齢者世代に健筆を振るつてもらう平成26年の「全国シルバー書道展」は広島、三重、大阪など西日本の2府6県で開催された。出品者の男性最高年齢は三重展の103歳、女性は兵庫、岡山展で102歳だった。各会場では、年齢を感じさせない若々しい筆遣いの作品が来場者に感動を与えた。また、兵庫展ではシルバー書道展と一緒に催す「ファミリー展」に、孫やひ孫らが37~58点を出品して会場を盛り上げた。

力強く鮮やかな筆遣い

魅了した。

平均年齢は約75歳で、85歳以上が31人を数えた。85歳以上の人の作品の脇には赤いリボンが添えられ、年齢を感じさせない鮮やかな筆遣いが見る人に感動を与えていた。

男性の最高齢者は93歳の前田

牧川さん(愛知郡)、女性は96

歳の杉橋てつさん(高島市)。

前田さんは漢字で「松竹水聲涼」と書いた。松竹の緑を映した流れの音はひときわ涼しいという意味で、筆さばきは、清流を連想させるような美しさだった。杉橋さんは漢字とかなを交えた調和体で「歳かさね廻り年なり午の春」とバランス良く書き上げた。含蓄あふれる言葉に、入館者らは足を止めて見入っていた。

ほかにも、「乾坤一擲(けん

こんいつてき)」と思ひを込め美び、約1000人の入場者ら

前田さんと杉橋さんは漢字で「松竹水聲涼」と書いた。松竹の緑を映した流れの音はひときわ涼しいという意味で、筆さばきは、清流を連想させるような美しさだった。杉橋さんは漢字とかなを交えた調和体で「歳かさね廻り年なり午の春」とバランス良く書き上げた。含蓄あふれる言葉に、入館者らは足を止めて見入っていた。

また、シルバー展とともに、第9回滋賀書作家協会員展、第6回滋賀読売競書大会入賞展が同時に開催され、多くの書道ファンが会場を埋め尽くした。主催した日本書芸院の岡田祖翠さんは「社中の先生に指導を受けている人、個人で出品した人などいろいろな人の作品が集まり、調和体のほかにも、かな、楷書、隸書、草書や写経などバラエティーに富みました。書を続ける人の励みになる展覧会になつた」と話していた。

華各自姫」など題材にも、それの人柄がじみ出るよつた意味深い作品が目を引いた。主催した日本書芸院の岡田祖翠さんは「社中の先生に指導を受けている人、個人で出品した人などいろいろな人の作品が集まり、調和体のほかにも、かな、楷書、隸書、草書や写経などバラエティーに富みました。書を続ける人の励みになる展覧会になつた」と話していた。

第27回広島展	平成26年12月21~22日	広島県民文化センター (平成27年度の観覧会は日程の都合で26年に開催しました)
第28回大阪展	2月10~15日	大阪市立美術館 地下展示会室
第28回三重展	2月26日~3月1日	津リージョンプラザ
第28回京都展	2月27日~3月1日	京都文化博物館
第28回滋賀展	4月23~26日	大津市歴史博物館
第27回奈良展	5月22~24日	奈良県文化会館
第18回和歌山展	9月2~6日	和歌山県民文化会館
第28回岡山展	10月21~25日	天満屋岡山店・葦川会館
第28回兵庫展	10月24~25日	県立美術館・原田の森ギャラリー

平成27年(2015年)
全国シルバー書道展(予告)

伝統と創意

公益社団法人 日本書芸院

■ 展覧会

<日本書芸院展>

日本書芸院社員相互の共励琢磨による「書」の本質的研究を通して、後進の育成に尽力しています。

●日本書芸院展(役員・役職者展) 会場: 大阪国際会議場(大阪市北区)

●日本書芸院(四月展) (六月展)

会場: 大阪市立美術館地下展示会室(大阪市天王寺区)

●特別企画展・海外展

<その他の企画展>

小学生からシルバー世代まで、全世代を網羅する書道展を開催して、書の啓蒙と普及、我が国文化の継承・振興・発展のために活動しています。

●全日本小学生・中学生書道紙上展 読売新聞紙上および小中展新聞紙上

●全日本高校・大学生書道展

会場: 大阪市立美術館地下展示会室(大阪市天王寺区)

●全国シルバー書道展 近畿2府4県および三重・岡山・広島県で開催

■ 講習会

●記念講座

●教養講座

●「手書き文字ばんざい!」

(文字・活字文化の日記念イベント)

■ 出版

●作品集・図録

●会報

●研究誌・記念誌

●広報紙

広報紙「書くよろこび」を無料でお届けします

「書くよろこび」は、書くことのよろこびや楽しさを広く一般の方にアピールし、書写書道のより一層の振興と発展を目的とした無料の広報紙です(年1回2月発行、50万部)。書道教室や部活動、展覧会場など、書や文字に関する様々な場面で配布、活用いただいている。送料無料でお届けいたしますので、ご希望の部数と送付先を日本書芸院事務所へお申し込み下さい。お待ちしています。

■ 沿革と概要

昭和21年(1946年)11月創立

昭和22年(1947年)5月、社団法人の認可を受ける

平成18年(2006年)創立60周年を迎え、平成22年(2010年)6月に公益法人制度改革により、内閣府から公益社団法人の認定を受ける

■現在、北海道から沖縄まで全国に約1万5千人の社員を擁する我が国屈指の書道団体であり、社員の中から、文化勲章受章者3名(故村上三島、故杉岡華郎、高木聖鶴)をはじめ文化功労者、日本藝術院会員、日本藝術院賞受賞者、日展や読売書法展など全国規模の大公募展の役員・審査員を務める著名な書道芸術家を多数輩出しています。

■毎年、公募を含めた書展や企画展、各種の講習会・講演会を開催しています。